

# 選挙出前授業 広げたい

京都市右京区で区選挙管理委員会と連携し若者の政治への関心を高めるために活動する学生団体「右京区学生選挙サポーター」が取り組む小学校での出前授業の方法をまとめた本を、花園大の中善則教授が出版した。事前の打ち合わせ内容や授業の時間配分、画面説明表示用の資料、司会のせりふなどを詳しく紹介する。

## 花園大・中教授 学生の活動、本に

サポーターは2011年、区内の大学に通う学生を中心に結成。出前授業のほか、期日前投票や開票作業の事務、投票率向上のためのPRなどを、区内の大学に通う学生を中心に行っている。サポーターは、大学のアクティブ・ラーニング型選挙出前授業（ナカニシヤ出版刊）をまとめた



「先生や保護者の方に読んでほしい、子どもと選挙の話をしてほしい」と話す中教授(京都市中京区・花園大)

## 「1票の意味 子ら気づいて」

出前授業は、学生が小学校で劇やグループワークを行う。学生が候補者になって「社会保障」や「教育」などを公約に演説し、児童が実際の投票箱で模擬投票をする。その後グループワークで、投票先を決めた基準や、選挙に参加するうえで大切な事は何かなどを話し合う。

同書では、子どもたちには、自分の推薦候補が敗れても、投じた1票には意味があったことに気づかせ、候補者の意見をきちんと知り、真剣に考えることが大事だと伝えるのが重要と説明する。

中教授は「出前授業が広がり、政治的な判断力のある子どもが育っていったら。大人も選挙や投票する意味などを話し合っ

てほしい」と話した。  
B5判、73ページ。税込み2700円。

(加藤華江)